

九州地方整備局における 技術提案・交渉方式（ECI方式）の 適用事例について

国土交通省 九州地方整備局 企画部 技術管理課

1. はじめに

九州地方整備局では、平成28年熊本地震における災害復旧事業、北側復旧道路の二重峠トンネル整備において、初めて技術提案・交渉方式を採用し、これまでに8件（河川3件、道路5件）の工事契約を行ってきました。

本稿では、鹿児島県薩摩川内市道隈之城・高城線天大橋補修工事（以下、「本工事」という）における技術提案・交渉方式の取組について紹介します。

2. 技術提案・交渉方式（ECI方式） の適用工事の概要

天大橋（橋長約518m）については、平成30年度に薩摩川内市からの要請を受け、直轄診断を実施し、さらに同市から道路法第17条第6項の修繕代行の要請を受け、令和元年度から直轄修繕代行事業（修繕代行区間約328m）に着手しています。

このうち、一級河川川内川を渡河するPC3径間連続ポストテンション有ヒンジラーメン橋（約227m）は、中央ヒンジ部の垂れ下がりや主桁ウェブのひび割れ、河川内橋脚のひび割れなどの損

傷が確認されました。

よって、補修対策の施工にあたっては、構造系の変更（ヒンジ構造部の連結と外ケーブル補強による連続ラーメン化）に伴う完成後の構造安全性（耐久性も含む）を確保する補修工法や、社会的影響に配慮した工事期間の短縮など、種々の課題に対して、施工者独自の高度な技術力が必要であることから、発注にあたって、設計段階から施工者独自のノウハウを取り入れる発注方式（技術提案・交渉方式（技術協力・施工タイプ））を採用することとしました。

図-1に位置図及び図-2に工事概要図を示します。

○本工事の概要

① 技術協力業務

橋梁補修設計 1式

② 補修工事

橋梁床版工 1式 橋梁付属物工 1式

橋梁補修工 1式 外ケーブル工 1式

構造物撤去 1式 仮設工 1式

③ 履行期間

1) 技術協力業務

令和2年10月5日～令和3年1月15日

2) 建設工事

令和3年3月12日～令和4年3月10日

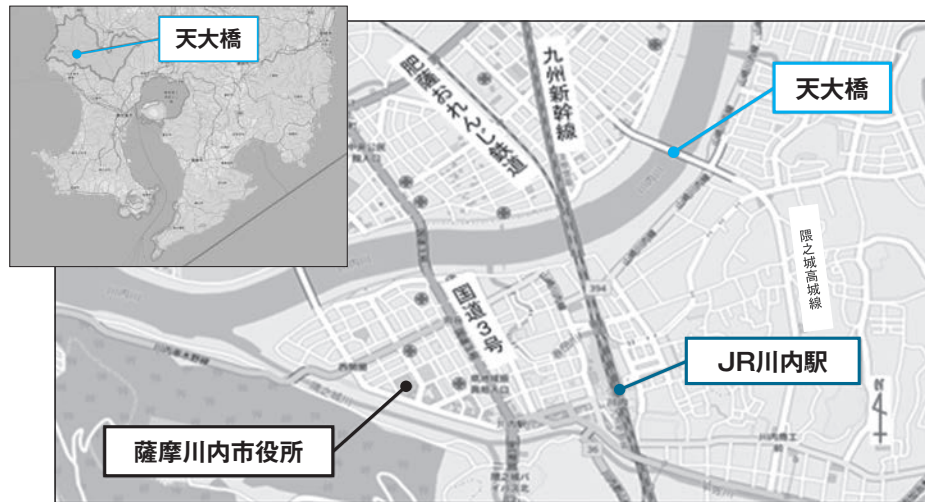


図-1 位置図

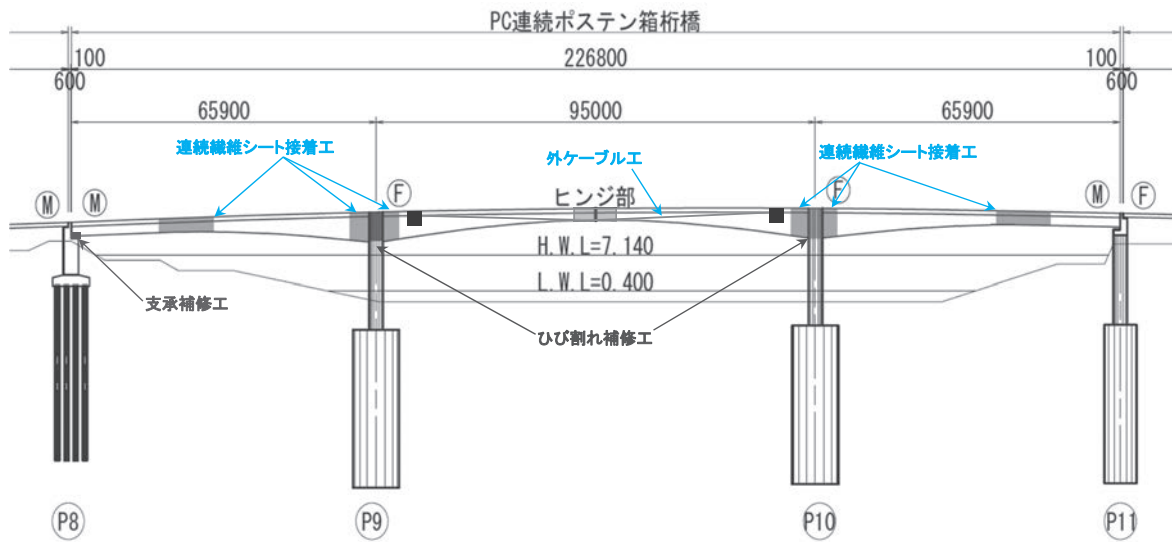


図-2 工事概要

3. 技術提案・交渉方式に係る手続きの概要と選定・特定方法

技術提案等の審査及び評価は、九州地方整備局の入札契約手続運営委員会に諮った上で決定しました。

また、中立かつ公正な審査・評価の確保を図るため、学識経験者で構成する「技術提案・交渉方式に係る専門部会」（以下、「専門部会」という）を設置しました。専門部会は表-1に示す学識経

験者4名で構成し、技術提案項目の設定段階、技術審査段階、価格等の交渉段階において意見を伺いました。

契約相手方の選定方法（図-3）は、競争参加資格確認申請書及び技術提案書の提出を行った者と技術提案書の内容に係るヒアリングを実施し、技術評価点が最も高い者を優先交渉権者として選定しました。

なお、本工事では有資格者4者から申請書及び技術提案書の提出がなされ、審査結果により、優先交渉権者として選定した者と技術協力業務の締

表-1 技術提案・交渉方式に係る専門部会の委員（令和3年2月時点）

	氏名	所属
委員 (五十音順)	園田 佳巨	九州大学大学院 工学研究院 教授
	武若 耕司	志學館大学 法学部 教授
	松村 政秀	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 教授
	山口 明伸	鹿児島大学学術研究院 理工学域工学系 教授

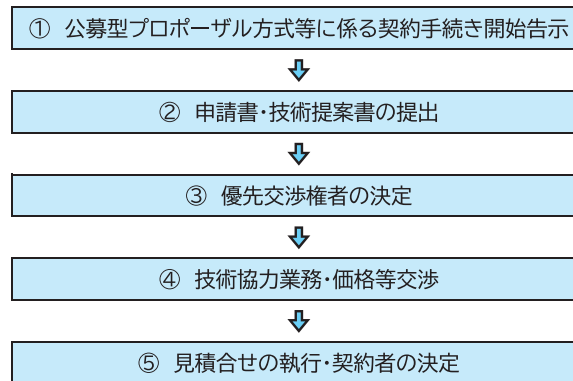


図-3 契約者決定までの流れ

結を実施し、発注者と優先交渉権者との間で締結される基本協定に基づき、価格等の交渉を経て契約を行いました。

4. おわりに

九州地方整備局では、橋梁補修工事の権限代行事業において、技術提案・交渉方式を初めて採用

しましたが、引き続き技術提案・交渉方式の適用について普及促進を図るとともに、今後は、設計・施工段階を含めた事例の紹介も行っていきたいと思います。

なお、本稿では手続きの流れに重点をおいて説明しているため、評価内容等についての詳細は、PPIより「契約者の選定経緯及び技術評価点内訳表」をご参照いただければと思います（工事名：天大橋で検索）。